2021 年 2 月 18 日

日本外科学会会員の皆様

理事長 早川 哲史

National Clinical Database (NCD)における鼠径部ヘルニア手術、新規入力のお願い

謹啓、 時下 、 外科学会会員の皆様におかれましては，益々ご健勝のこととお慶び申し上げます 。

日本ヘルニア学会（JHS）では、日本で症例登録を行うには NCD データを活用することが得策と考え、2017 年に消化器外科データベース関連学会協議会に参加し、2018 年から NCD における鼠径部ヘルニア手術のデータ抽出が可能となりました。その結果は、日本ヘルニア学会誌に報告しております（ 文献 1）。 2017 年の鼠径部ヘルニア手術症例数は 110,252 例で した。しかし、 現在の NCD に おける鼠径部ヘルニア手術のデータは、外科専門医の共通項目 のみで、左右の区別、初発・再発の区別、詳細な手術術式（ Lichtenstein 法、Mesh plug 法、TAPP 、TEP など）、鼠径部ヘルニアの分類 など、日本外科学会として把握すべきデータがほとんど得られない状況です 。

そこで、JHS は消化器外科データベース関連学会協議会と協議を重ね、鼠径部ヘルニア手術について、新たに 4 つの入力項目を追加することになりました。追加 4 項目の詳細を資料 1 、2 に示します。 この新たな症例登録は、登録をしていただける施設・診療科を JHS から NCD 側に提出し、NCD 登録施設と紐付けすることによって、新規入力が開始されます。新規入力の開始時期は、2021 年 4 月以降を予定しております。

ご存じの通り、JHS では、2006 年版 鼠径部ヘルニア分類（ JHS 分類）を発信し、現在、国内では、多くの外科学会会員の皆さまに周知されております。しかし一方で、世界に目を向けますと、鼠径部ヘルニアの国際ガイドラインでは、European Hernia Society 分類（EHS 分類）が鼠径部ヘルニアの分類として推奨されており、今や EHS 分類が世界標準の鼠径部ヘルニア分類となっております。JHS としましては、EHS 分類に準じて国際化に歩み寄ることが、今後の日本におけるヘルニア治療の発展に繋がっていくであろうと判断いたしました。NCD 登録では従来の鼠径部ヘルニア分類（JHS 分類）を変更し、EHS 分類に準じた「2021 年版 鼠径部ヘルニア分類（新 JHS 分類）」を採用しています。

つきましては、日本外科学会会員の NCD 登録施設におかれましては、積極的に鼠径部ヘルニア手術の新規入力にご参加して頂くことを、お願い申し上げます。数年後には、鼠径部ヘルニア手術におけるより詳細なデータを蓄積して、鼠径部ヘルニア手術の質の改善に貢献していきたいと考えております。 今後、将来的にはロボット支援手術を開始する施設が増加すると推察されます。JHS としましては、ロボット支援手術を現在すでに行っている施設と今後行っていくことを検討している施設には、必ず NCD 登録に参加していただき、手術成績の集積を行っていきたいと考えています。

NCD 登録は 2021 年 4 月 1 日からの症例登録となります。現在登録施設として申請いただいている施設は 281 施設ですが、登録施設としての参加は今後順次いつでも可能です。JHS から

NCD への施設登録になりますので、JHS 事務局（hernia@med.teikyo-u.ac.jp）へご連絡をお願い申し上げます。JHS 事務局から、NCD 登録フォーマットを送信させていただきます。

何卒、できる限り多数の施設から参加登録を、宜しくお願い申し上げます。

謹白

文献 1. National Clinical Database における鼠径部ヘルニア手術～ Annual Report 2011 – 2017 ～：宮崎 恭介， 早川 哲史， 稲葉 毅， 上村 佳央， 川原田 陽， 嶋田 元，諏訪 勝仁， 宋 圭男， 諸冨 嘉樹， 長江 逸郎， パウデルサシーム， 松原 猛人，柵瀬 信太郎， 松本 純夫，福地 絵梨子， 宮田 裕章， 掛地 吉弘， 瀬戸 泰之：日本ヘルニア学会誌 2019. Vol5/No2 3-9